

§2 耐震診断

2.1 耐震診断の方針

2.1.1 準拠基準等（準拠する基準、判定基準等）

診断は「2001年 改訂版既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準向解説（財団法人日本建築防災協会）」（以降 RC 診断基準）に基づき、2次診断を行うものとする。

改修計画は、「2001年 改訂版既存鉄筋コンクリート造建築物の改修設計指針・同解説（財団法人日本建築防災協会）」に基づき行うものとする。

【参考文献】「建築物の耐震改修の促進に関する法律」の法令及びその解説
「福岡県建築物耐震診断・耐震改修マニュアル」（平成 19 年改訂）

（1）荷重計算方針

固定荷重はすべて既存設計図書及びこれより作成した再現図に記載の断面形状を採用し、積載荷重は、建築基準法施行令第 85 条を基にした。床面（平面）荷重以外の荷重はすべて各階の中間で上下に振り分けて算定し、床面の数による低減は行わない。

（2）剛性計算方針

診断が目的であることから腰壁、垂壁、袖壁を考慮して剛域を設定し、鉄筋コンクリート構造計算規準・解説の開口周比より耐震壁の開口低減率を考慮し耐震壁となる壁はエレメント置換を行う。

（3）応力計算方針

鉛直荷重時、水平荷重時共軸変形、せん断変形を考慮した変形法による立体解析を採用し、水平荷重は X、Y 方向共一次設計は正負加力（左から右と右から左）を用いて算定する。

（4）部材強度計算方針

原則的に、「RC 診断基準」に示されている終局強度式により算定するが、曲げ終局強度には、「完全塑性理論式」を用いる。

2.1.2 建物の構造的特徴（耐震診断上の特徴）

構造調査及び設計図書から、昭和 33 年の竣工以降、平成 7 年に改修工事、平成 8 年に改修空調工事が行われている。本診断該当部分において設計図書と異なる部分は見られない為、設計図書の構造、規模を採用する。

南側に市民会館部が、西側には美術展示室が位置している。観覧席部分は吹抜けとなっており舞台側には片持ち柱となる部材がある。建物下部は RC 造、市民会館部屋根は S 造となっている。桁行方向、張間方向共に耐震壁付のラーメン構造である。

2.1.3 準拠基準等（準拠する基準、判定基準等）

（1）判定基準

以下の数値を採用する。

・ RC 診断基準	
地域係数	Z=0.8
地盤係数	第二種地盤
水平力分布	A _i 分布
地盤指標	G=1.0
用途指標	U=1.0

・ 判定基準

2次診断用	I _{so}	I _{so} =0.60
	I _s	I _s =E _o ・SD・T / Z
判定基準	I _s ≥ I _{so} かつ	C _{TV} ・S _p ≥ 0.3

・ 診断次数

2次診断で判定を行う。

・ 外力分布による補正係数

A_i の逆数を用いる。

・ 形状指標について

剛重比、偏心率については、それぞれ現行法規に規定された F_e、F_s の逆数を使用する。

・ 付加軸力の決定

下階壁抜け柱の検討の場合を除き変動軸力を考慮しないこととし、長期軸力を用いることとする。

・ 耐力評価時の柱内法高さは、大梁・腰壁・垂壁のフェース位置とした。

・ 耐震壁のせん断終局強度算定の際、梁主筋の考慮は行わないものとした。

・ 柱の耐力算定時に、直交壁の考慮は行わないものとした。

(2) 材料強度

コンクリートの強度は特記仕様書より、設計基準強度は、 $F_c=180\text{kg/cm}^2$ ($F_c = 17.6 \text{ N/mm}^2$)とする。
 現地調査の結果、推定コア強度は全ての箇所設計基準強度を上回る結果となった。
 診断採用強度は2階・5階で設計基準強度 $F_c=17.6\text{N/mm}^2 \times 1.25$ である 22.0N/mm^2 を採用した。
 1階・3階・4階は $F_c=17.6\text{N/mm}^2 \times 1.25$ である 22.0N/mm^2 を下回るなので、推定コア強度を採用した。
 よって、診断強度は

1階： 20.8N/mm^2 、2階： 22.0N/mm^2 、3階： 20.4N/mm^2 、4階： 18.7N/mm^2 、5階： 22.0N/mm^2
 とした。

鉄筋の強度は、はつり調査結果より 丸鋼 ($\phi 9 \sim \phi 25$)であったので、「福岡県建築物耐震診断・耐震改修マニュアル」より、次項に示す強度を採用した。

・ コンクリート強度

(単位： N/mm^2)

階	竣工	採取位置	コア圧縮強度	平均値	標準偏差	推定コア強度 平均値 - 標準偏差/2	設計基準強度	設計基準強度 $\times 1.25$	診断採用強度
1階	S33	A-B1C1	26.1	22.4	3.3	20.8	17.6	22.0	20.8
		A-B1C2	19.9						
		A-B1C3	21.3						
2階	S33	A-1C1	28.1	28.6	5.1	26.0	17.6	22.0	22.0
		A-1C2	23.7						
		A-1C3	33.9						
3階	S33	A-2C1	21.7	21.0	1.3	20.4	17.6	22.0	20.4
		A-2C2	19.5						
		A-2C3	21.9						
4階	S33	A-3C1	20.9	19.4	1.5	18.7	17.6	22.0	18.7
		A-3C2	17.9						
		A-3C3	19.5						
5階	S33	A-4C1	32.1	32.6	5.2	30.0	17.6	22.0	22.0
		A-4C2	38.0						
		A-4C3	27.6						

・ 鉄筋強度

S33	$\sigma_s = 294 \text{ N/mm}^2$ (SR24)	柱主筋、大梁主筋 ・・・ $\phi 16$ 、 $\phi 19$ 、 $\phi 22$ 、 $\phi 25$	丸鋼
	$\sigma_s = 240 \text{ N/mm}^2$ (SRR24)	壁筋、スラブ筋 ・・・ $\phi 9$	丸鋼

(3) 使用プログラム

・準備計算 コニオンシステム(株) Super Build / SS3 Ver. 1.1.1.23

・第2次診断 コニオンシステム(株) Super Build /RC 診断 2001 Ver. 2.40

(4) H_0 の取り方

・標準内法階高 H_0 は、検討方向全体の平均値を用いる。

(5) モデル化による検討方法

- ・CB 壁は、重量のみ考慮した。
- ・梁に腰壁下がり壁が取り付く場合の内り高さは、左右の開口高の小さい寸法を採用する。
また、袖壁が柱に取り付いていて各層に連続している場合に柱型付壁と判定された場合、せん断耐力は両側柱付壁としての反曲点高さから算定した。
- ・上部観覧席の荷重は特殊荷重で別途入力した。

(6) E_0 式の扱い

本建物は RC 構造であるため、 E_0 の算定は以下の「RC 診断基準」(2001)に記載された式を用いる。

2次診断

$$E_0 = \frac{1}{A_i} \cdot \sqrt{E_1^2 + E_2^2 + E_3^2} \quad (4) \text{式}$$

$$E_0 = \frac{1}{A_i} \cdot (C_1 + \alpha_2 C_2 + \alpha_3 C_3) \quad (5) \text{式}$$

(7) 「RC 診断基準」(2001) の取り扱い

1) 強度寄与係数について

「RC 診断基準」(2001) の表 3 による。

2) 第2種構造要素の取り扱い

「RC 診断基準」(2001) の解表 3. 2. 1- 1 による。

3) 袖壁の有効長さや反曲点高さの取り方

袖壁は、30 cm以上の壁を計算上有効な袖壁とする。

また、壁と、壁付き柱の反曲点は、「RC 診断基準」(2001)に記載された式と、付則 3 による。

(8) 判定を満たさない場合の I_s の表示

- ・診断結果が $C_{IV} \cdot S_0$ を満たさない場合は、判定を「NG」として $C_{IV} \cdot S_0 < 0.3$ での I_s 値を表示する。

2. 建物重量

階	各階重量 (kN) W_i	総重量 (kN) $\sum W_i$	α	A_i	各階面積 (㎡) A_f	単位面積あたり床荷重 (kN/㎡) 参考
6	5516	5516	0.056	2.715	416.45	13.2
5	13247	18763	0.191	1.863	1457.56	9.1
4	9741	28504	0.291	1.644	323.91	30.1
3	16887	45391	0.464	1.414	963.45	17.5
2	23431	68822	0.704	1.201	1471.88	15.9
1	28865	97687	1.000	1.000	2536.12	12.4

建物一次固有周期 [略算] $T = 0.543 \text{ sec}$ 建物高さ $h = 27.17 \text{ m}$

2. 3 形状指標

・項目の分類及び G.R 一覧表

項目	Gi (グレード)						R レンジ調整係数		判定	項目毎の算定	
	形状	1	0.9	0.8	R1i	R2i	Gi	a1i		a2i	
		(1)	(2)	(3)							
第1次・第2次診断用 (1・2)	平面形状 (P)	a 整形性	整形a1	ほぼ整形a2	不整形a3	1.00	0.50	1.0	1.000	1.000	
		b 辺長比	$b \leq 5$	$5 < b \leq 8$	$8 < b$	0.50	0.25	1.0	1.000	1.000	
		c <びれ	$0.8 \leq c$	$0.5 \leq c < 0.8$	$c < 0.5$	0.50	0.25	1.0	1.000	1.000	
		d EXP. J	$1/100 \leq d$	$1/200 \leq d < 1/100$	$d < 1/200$	0.50	0.25	1.0	1.000	1.000	
		e 吹抜	$e \leq 0.1$	$0.1 < e \leq 0.3$	$0.3 < e$	0.50	0.25	1.0	1.000	1.000	
	f 吹抜の偏在	$f1 \leq 0.4$ かつ $f2 \leq 0.1$	$f1 \leq 0.4$ かつ $0.1 < f2 \leq 0.3$	$0.4 < f1$, 又は $0.3 < f2$	0.25	0.00	0.8	0.950	1.000		
	g										
	h 地下室の有無	$1.0 \leq h$	$0.5 \leq h < 1.0$	$h < 0.5$	1.00	1.00	0.8	1.000	1.000		
	i 層高の均等性	$0.8 \leq i$	$0.7 \leq i < 0.8$	$i < 0.7$	0.50	0.25	1.0	1.000	1.000		
	j ピロティの有無	ピロティ無し	全てピロティ	ピロティが偏在	1.00	1.00	1.0	1.000	1.000		
k											
第2次診断用 (2)	平面剛性 (P R)	l 偏心率	$1 \leq 0.1$	$0.1 < l \leq 0.15$	$0.15 < l$	-	1.00			$G' l = 1/Fe$	
		m									
	断面剛性 (S R)	n 剛重比	$n \leq 1.3$	$1.3 < n \leq 1.7$	$1.7 < n$	-	1.00			$G' n = 1/Fs$	
		o									
								0.95	1.00		

注記
※印は項目 a, i, j について、偏心率、剛性率を積算し、その結果に基づいて算出のため、Gi = 1.0 とする。

1次診断の形状指標 SD 1 = 0.95 | 2次診断の形状指標 SD 2 = 1.00 | 3次診断の形状指標 SD 3 = 1.00

SD 考察のコメント 対象となる項目のみ

a 整形性			グレード	1.0
b 辺長比	$b = 68.175 / 38.178 = 1.79$	$b \leq 5$	グレード	1.0
c <びれ			グレード	1.0
d EXP. J			グレード	1.0
e 吹抜			グレード	1.0
f 吹抜の偏在			グレード	0.8
g				
h 地下室の有無			グレード	0.8
i 層高の均等性			グレード	1.0
j ピロティの有無			グレード	1.0
k				

適応の対応 最も不利な階で検討し全体に適用する。

a1 : ほぼ 2軸対象のもので、1つの突出部の面積が床面積の 10% 以下のもの。
a2 : a1より不整形なもの。また、L, T, U 型等の平面の1つの突出部の面積が床面積の 30% 以下のもの。
a3 : a2より不整形なもの。
また、L, T, U 型等の平面の1つの突出部の面積が床面積の 30% を超えるもの。
突出部とは、長さ(L) / 幅 (b) $\geq 1/2$ の場合を対象とする。
b : b = 長辺/短辺。L, T, U 型等の場合は、長辺長さとして 2L を用いる。
c : c = D1 / D0
d : エキスパンションジョイントのある場合に適用する。d = EXP. J の躯体間隔 / d = EXP. J の高さ

e : e = 吹抜部面積 / (吹抜部面積を含む) 床面積。
但し、鉄筋コンクリート壁に囲まれている階段室は吹抜部と見なさない。
f : f1 = {建物中心 (図芯) と吹抜部中心間の距離} / 建物短辺長さ。
f2 = {建物中心 (図芯) と吹抜部中心間の距離} / 建物長辺長さ。
h : h = 地下面積 / 建築面積
i : 上階の階高/検討する層の階高。検討する階が最上階の場合は式中、上層を下層と読み替える。
j : j = 床面がピロティのみにより支持されており、かつそのピロティの平面的配置が偏っている。
但し、全架構が純ラメンの場合はピロティとして扱わない。

・偏心率

凡例
 g : 重心位置 (軸力の中心) (m) e : 偏心距離 (m) re : 弾力半径 (m) 主軸方向 (度)
 p : 剛心位置 (m) KR : ねじり剛性 (kNm×10⁻³) Re : 偏心率 Fe : 形状特性係数

<雑壁を考慮した場合>(加力方向 : X正 Y正)

X方向	階	gx	gy	px	py	ey	re	Re	Fe
	6	36.057	68.103	35.986	67.030	1.073	12.483	0.086	1.000
	5	36.086	54.116	36.024	50.563	3.553	29.868	0.119	1.000
	4	35.930	51.840	35.709	65.121	13.282	30.161	0.440*	1.500
	3	39.212	48.189	41.383	51.055	2.866	33.903	0.085	1.000
	2	41.752	45.246	43.791	56.999	11.753	42.013	0.280*	1.433
	1	43.253	41.208	41.722	23.820	17.388	22.795	0.763*	1.500

Y方向	階	gx	gy	px	py	ex	re	Re	Fe
	6	36.057	68.103	35.986	67.030	0.071	20.778	0.003	1.000
	5	36.086	54.116	36.024	50.563	0.061	23.133	0.003	1.000
	4	35.930	51.840	35.709	65.121	0.220	19.485	0.011	1.000
	3	39.212	48.189	41.383	51.055	2.172	26.969	0.081	1.000
	2	41.752	45.246	43.791	56.999	2.039	29.974	0.068	1.000
	1	43.253	41.208	41.722	23.820	1.531	23.998	0.064	1.000

<雑壁を考慮した場合>(加力方向 : X正 Y負)

X方向	階	gx	gy	px	py	ey	re	Re	Fe
	6	36.057	68.103	35.986	67.030	1.073	12.483	0.086	1.000
	5	36.086	54.116	36.024	50.563	3.553	29.868	0.119	1.000
	4	35.930	51.840	35.709	65.121	13.282	30.161	0.440*	1.500
	3	39.212	48.189	41.383	51.055	2.866	33.903	0.085	1.000
	2	41.752	45.246	43.791	56.999	11.753	42.013	0.280*	1.433
	1	43.253	41.208	41.722	23.820	17.388	22.795	0.763*	1.500

Y方向	階	gx	gy	px	py	ex	re	Re	Fe
	6	36.057	68.103	35.986	67.030	0.071	20.778	0.003	1.000
	5	36.086	54.116	36.024	50.563	0.061	23.133	0.003	1.000
	4	35.930	51.840	35.709	65.121	0.220	19.485	0.011	1.000
	3	39.212	48.189	41.383	51.055	2.172	26.969	0.081	1.000
	2	41.752	45.246	43.791	56.999	2.039	29.974	0.068	1.000
	1	43.253	41.208	41.722	23.820	1.531	23.998	0.064	1.000

<雑壁を考慮した場合>(加力方向 : X負 Y正)

X方向	階	gx	gy	px	py	ey	re	Re	Fe
	6	36.057	68.103	35.986	67.030	1.073	12.483	0.086	1.000
	5	36.086	54.116	36.024	50.563	3.553	29.868	0.119	1.000
	4	35.930	51.840	35.709	65.121	13.282	30.161	0.440*	1.500
	3	39.212	48.189	41.383	51.055	2.866	33.903	0.085	1.000
	2	41.752	45.246	43.791	56.999	11.753	42.013	0.280*	1.433
	1	43.253	41.208	41.722	23.820	17.388	22.795	0.763*	1.500

Y方向	階	gx	gy	px	py	ex	re	Re	Fe
	6	36.057	68.103	35.986	67.030	0.071	20.778	0.003	1.000
	5	36.086	54.116	36.024	50.563	0.061	23.133	0.003	1.000
	4	35.930	51.840	35.709	65.121	0.220	19.485	0.011	1.000
	3	39.212	48.189	41.383	51.055	2.172	26.969	0.081	1.000
	2	41.752	45.246	43.791	56.999	2.039	29.974	0.068	1.000
	1	43.253	41.208	41.722	23.820	1.531	23.998	0.064	1.000

<雑壁を考慮した場合>(加力方向 : X負 Y負)

X方向	階	gx	gy	px	py	ey	re	Re	Fe
	6	36.057	68.103	35.986	67.030	1.073	12.483	0.086	1.000
	5	36.086	54.116	36.024	50.563	3.553	29.868	0.119	1.000
	4	35.930	51.840	35.709	65.121	13.282	30.161	0.440*	1.500
	3	39.212	48.189	41.383	51.055	2.866	33.903	0.085	1.000
	2	41.752	45.246	43.791	56.999	11.753	42.013	0.280*	1.433
	1	43.253	41.208	41.722	23.820	17.388	22.795	0.763*	1.500

Y方向	階	gx	gy	px	py	ex	re	Re	Fe
	6	36.057	68.103	35.986	67.030	0.071	20.778	0.003	1.000
	5	36.086	54.116	36.024	50.563	0.061	23.133	0.003	1.000
	4	35.930	51.840	35.709	65.121	0.220	19.485	0.011	1.000
	3	39.212	48.189	41.383	51.055	2.172	26.969	0.081	1.000
	2	41.752	45.246	43.791	56.999	2.039	29.974	0.068	1.000
	1	43.253	41.208	41.722	23.820	1.531	23.998	0.064	1.000

・剛性率、層間変形角

凡例
 σ_s : 剛性率計算時の層間変位 r_s : 剛性率計算時の層間変位の逆数 R_s : 剛性率
 F_s : 形状特性係数

<雑壁を考慮した場合>

方向	階	Qi [kN]	δ_s [mm]	1/ r_s	剛性率	形状特性係数
X 正	6	239E.3	0.14668	1/26487	2.057	1.000
	5	559E.6	0.44104	1/12833	0.997	1.000
	4	749E.8	0.39670	1/ 8402	0.652	1.000
	3	1027E.1	0.46057	1/10526	0.817	1.000
	2	1322E.3	0.49611	1/ 8551	0.664	1.000
	1	1562E.4	0.46527	1/10424	0.809	1.000
X 負	6	239E.3	0.14668	1/26487	2.057	1.000
	5	559E.6	0.44104	1/12833	0.997	1.000
	4	749E.8	0.39670	1/ 8402	0.652	1.000
	3	1027E.1	0.46057	1/10526	0.817	1.000
	2	1322E.3	0.49611	1/ 8551	0.664	1.000
	1	1562E.4	0.46527	1/10424	0.809	1.000
Y 正	6	239E.2	0.40643	1/ 9559	0.610	1.000
	5	559E.8	0.26458	1/21392	1.366	1.000
	4	749E.7	0.16556	1/20132	1.286	1.000
	3	1027E.1	0.29146	1/16633	1.062	1.000
	2	1322E.4	0.25252	1/16799	1.073	1.000
	1	1562E.4	0.51570	1/ 9405	0.600	1.000
Y 負	6	239E.2	0.40643	1/ 9559	0.610	1.000
	5	559E.8	0.26458	1/21392	1.366	1.000
	4	749E.7	0.16556	1/20132	1.286	1.000
	3	1027E.1	0.29146	1/16633	1.062	1.000
	2	1322E.4	0.25252	1/16799	1.073	1.000
	1	1562E.4	0.51570	1/ 9405	0.600	1.000

・形状指標SDの算出

$$SD = SD_2 \times (1/Fes)$$

方向	階	平面剛性・断面剛性以外の評価 (SD2)	Fes	SD	備考
X	6	1.00	1.000	1.00	
	5	1.00	1.000	1.00	
	4	1.00	1.500	0.67	
	3	1.00	1.000	1.00	
	2	1.00	1.432	0.70	
	1	1.00	1.500	0.67	
Y	6	1.00	1.000	1.00	
	5	1.00	1.000	1.00	
	4	1.00	1.000	1.00	
	3	1.00	1.000	1.00	
	2	1.00	1.000	1.00	
	1	1.00	1.000	1.00	

2. 4 経年指標

2.3次診断の経年指標 (T)

注) 該当する箇所に ● 印を付ける。

○○小学校 ○棟

部 位	程 度	P1: 構造ひび割れ・変形															P2: 変質・老朽化																			
		a					b					c					a					b					c									
階	範 囲	a					b					c					a					b					c									
減点数	1	2	3	4	5	6	減点数	1	2	3	4	5	6	減点数	1	2	3	4	5	6	減点数	1	2	3	4	5	6	減点数	1	2	3	4	5	6		
I 床・小梁	総床数の 1/3 以上	0.017					0.005						0.001							0.017						0.005						0.001				
	ii 同上 1/3 ~ 1/9	0.006					0.002						0							0.006						0.002						0				
	iii 同上 1/9 未満	0.002					0.001						0							0.002						0.001									●	
	iv 同上 0	0	●	●	●	●	0	●	●	●	●	●	0	●	●	●	●	●	●	0	●	●	●	●	●	0	●	●	●	●	●	●	●	●	●	
II 大梁	i 建物一方向につき 総部材数の 1/3 以上	0.050					0.015						0.004							0.050						0.015						0.004				
	ii 同上 1/3 ~ 1/9	0.017					0.005						0.001							0.017						0.005						0.001				
	iii 同上 1/9 未満	0.006					0.002						0							0.006						0.002						0	●	●		
	iv 同上 0	0	●	●	●	●	0	●	●	●	●	●	0	●	●	●	●	●	●	0	●	●	●	●	●	0	●	●	●	●	●	●	●	●	●	
III 壁・柱	i 総部材数の 1/3 以上	0.150					0.045						0.011							0.150						0.045						0.011				
	ii 同上 1/3 ~ 1/9	0.050					0.015						0.004							0.050	●	●	●	●		0.015						0.004				
	iii 同上 1/9 未満	0.017					0.005						0.001		●	●				0.017						0.005		●	●	●			0.001	●	●	●
	iv 同上 0	0	●	●	●	●	0	●	●	●	●	0	●	●	●	●	●	●	●	0	●	●	●	●	●	0	●	●	●	●	●	●	●	●	●	
合 計 (P1,P2)	小計	6F	0.000				6F	0.000					6F	0.000					6F	0.000					6F	0.000						6F	0.000			
	5F	0.000					5F	0.000					5F	0.000					5F	0.050					5F	0.005						5F	0.001			
	4F	0.000					4F	0.000					4F	0.000					4F	0.050					4F	0.005						4F	0.001			
	3F	0.000					3F	0.005					3F	0.001					3F	0.050					3F	0.005						3F	0.001			
	2F	0.000					2F	0.005					2F	0.001					2F	0.050					2F	0.005						2F	0.001			
	1F	0.000					1F	0.000					1F	0.000					1F	0.050					1F	0.000						1F	0.000			
	合計	6F	0.000				5F	0.000					4F	0.000					3F	0.006					2F	0.006						1F	0.006			
1F	0.000																		1F	0.050					0.056						0.056			2F	0.056	
経年指標 (T)	T6=	(1-P1) x (1-P2) =					1.000					T1=					(1-P1) x (1-P2) =					0.950														
	T5=	(1-P1) x (1-P2) =					0.944					T = (T1+T2+T3+T4+T5+T6) / 6=					0.952					∴ T =					0.962									
	T4=	(1-P1) x (1-P2) =					0.944																													
	T3=	(1-P1) x (1-P2) =					0.938																													
	T2=	(1-P1) x (1-P2) =					0.938																													

<コメント>

- ・壁に離れると肉眼では認められないひび割れを有する架構が2階・3階で総部材数の1/9未満確認されたため経年指標で考慮した。
- ・軽微な構造ひび割れが2階・3階壁で総部材数の1/9未満確認されたため経年指標で考慮した。
- ・外装材タイルの剥離や露筋している箇所が確認された。
- ・鉄筋の腐食については、はつり調査結果より一部グレードⅢ、Ⅳという結果となった。
- ・コンクリートの中性化深さ試験については、中性化が進行していると思われる数値が見られたため経年指標で考慮した。

T=0.946とする。

※築年数1年につき0.001の減点を考慮した場合、
0.001 x 54年 = 0.054

T = 1 - 0.054 = 0.946 となる。

上の表の建物実態調査より算出した経年指標と比較し低くなるため経年指標は T = 0.946 を採用した。